

9月16日開幕!



美の皇室

The Beauty of the Imperial Household in Connection with Hiroshima
The Masterpieces of the Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzokan

と広島

宮内庁

三の丸尚蔵館の

名品から



期間限定
伊藤若冲
《旭日鳳凰図》は
9/16~10/10
のみ展示

2022年
9月16日金
10月30日日

前期：9月16日金～10月10日月祝
後期：10月12日水～10月30日日
会期中、大幅な展示替えあり。

休館日：祝日除く月曜日、10月11日(火)
開館時間：9時～17時(金曜日は19時まで開館)
・入館閉館の30分前まで、9月16日は10時開場
・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開館情報等に変更が生じる場合がございます。

最新情報：広島県立美術館(広島テレビ、イマズテクノ、宮内庁後援・中国放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーび76MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送)

協賛：大相撲・広島県警・広島県消防・一般財団法人アレンシ地域振興財団

特別協力：文化庁、初・初・シロシロ、読売新聞社

助成：令和4年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会採択事業

上：川合玉堂(昭和度「悠紀地方風俗歌屏風」(右隻) 昭和3年(1928)【後期】
左下：伊藤若冲(旭日鳳凰図)(部分) 江戸時代 宝暦5年(1755)【前期】

広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum



宮内庁三の丸尚蔵館(さんのまるしょうぞうかん)は、皇居東御苑内において、皇室に代々受け継がれた絵画・書・工芸品など、皇室からの御寄贈、御遺贈品約9,800点を収蔵管理し、公開している施設です。

本展は、宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の名品から、昭和の大礼を彩った屏風や各種の御慶事で記念品として作られた愛らしいボンボニエールをはじめ、江戸時代の絵師として人気の高い伊藤若冲(いとうじゃくちゆう)の作品、平清盛・重盛親子にまつわる作品や広島藩主浅野家伝来の作品、そして児玉希望(こたまきぼう)、六角紫水(ろっかくしすい)、清水南山(しみずなんざん)、平山郁夫(ひらやまいくお)といった近現代の出身作家らによる作品などを紹介します。

また、広島県立美術館からも本展に関連する所蔵品を加えて、約80点(展示替え含む)により皇室と広島をつなぐ美の世界を御覧いただきます。

第1章 皇室の御慶事を彩る

第1章では昭和の大礼における御用品、献上品を中心に、御慶事を彩る華やかな美の世界の一端を紹介します。大礼における饗宴「大饗の儀」には「悠紀・主基地方風俗歌屏風(ゆきすきちほうふぞくうたびょうぶ)」と「御挿華(おんかざし)・御洲浜(おんすはま)」が飾られました。他方、明治時代以降、皇室の御慶事などに際して、フランスの菓子入れに由来するボンボニエールが饗宴の列席者に配られるようになりました。明治27年(1894)の明治天皇と昭憲皇太后の大婚二十五年祝典以降、国民から献上品が寄せられるようになり、大正、昭和の大礼では、各地の歴史に根差した主題や特産技法による美術品が数多く制作されました。



【左隻:前期】



【右隻:後期】

川合玉堂(かわいぎょくどう)

《昭和度 悠紀地方風俗歌屏風(ゆきちほうふぞくうたびょうぶ)》昭和3年(1928) 【前期・後期で場面替え】

即位の儀礼に関わる最も重要な屏風。昭和3年(1928)の大嘗祭における悠紀地方に定められた滋賀県内の伊吹山、竹生島、瀬田川、比良山などを川合玉堂が描き、和歌を子爵入江為守(いりえためもり)が担当しました。四季を織り交ぜ、人びとの息遣いまでも感じさせる、やまと絵風景画の大作です。

見どころ

第2章 皇室とつながる広島

第2章では明治天皇と広島の関わりを中心に作品を紹介します。明治天皇が初めて広島に行幸されたのは明治18年(1885)の山口・広島・岡山三県巡幸のときで、同27年には日清戦争に際して宇品港(広島港)のある広島市に大本営が設営され、明治天皇も広島市に遷(うつ)られました。このとき、岩佐又兵衛(いわさまたべえ)《をくり(小栗判官絵巻(おぐりはんがんえまき))》など広島県や中国地方に伝わった美術品が数多く上覧されました。行幸中における御買上品、献上品は皇室と広島のゆかりを深めるものとなっています。また、広島への行幸以前に旧藩主浅野長勲(あさのながこと)から明治天皇に献上された品も三の丸尚蔵館に伝わっています。



岩佐又兵衛(いわさまたべえ)

《をくり(小栗判官絵巻(おぐりはんがんえまき))》巻十(部分)

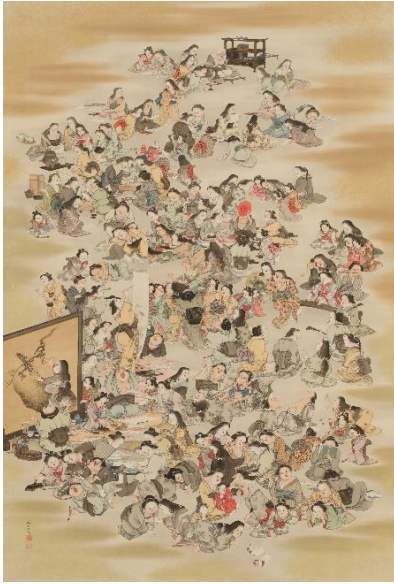
江戸時代(17世紀)【掲載場面:後期】

主人公小栗判官と照手(てるて)姫の波乱にとんだ恋愛話を題材とする絵巻。濃密で華麗な色彩や同一場面をくり返す段落構成、そして特徴的な面貌表現と動的な人物描写は、いずれも岩佐又兵衛の特徴を示しています。明治28年(1895)4月、広島大本営に滞在中の明治天皇に献上されました。

見どころ

第3章 広島ゆかりの作家たち

第3章では広島ゆかりの作家たちの作品を紹介します。江戸時代の当地を代表する文化人、菅茶山(かんちやざん)や頼山陽(らいさんよう)、頼三樹三郎(らいみきさぶろう)は、躍動感あふれる唐様の書風によって能書家としても評価されています。福山出身の画家、藤井松林(ふじいしゅうりん)は明治天皇の御下命を受けて《鯉魚游泳之図(りぎょゆうえいのず)》と《百福之図(ひやくふくのず)》を制作しました。当時の有力画家が筆をふるった画帖では、田中頼璋(たなからいしょう)と橋本静水(はしもとせいすい)、塩出英雄(しおでひでお)、平山郁夫(ひらやまいくお)らがその作風を伝えています。このほか本多錦吉郎(ほんだきんきちろう)、南薫造(みなみくんぞう)、児玉希望(こたまきぼう)、吉田霞山(よしだかざん)の絵画、初代小松寿山(こまつじゅざん)、五代金城一国斎(きんじょういっこくさい)による工芸品、中川為延(なかがわためのぶ)の彫刻など、いずれも各作家の個性がよく表れた秀作が揃います。



見どころ

藤井松林(ふじいしょうりん)

《百福之図(ひやくふくのず)》

明治23年(1890)【後期】

描かれた人物は約150人。みな円顔で鼻は低く、おでこ、頬高の特徴を持ち、にこやかにかわいらしい女性たちです。このような女性像をお多福と呼び、群像表現でそのまま「百福」を寓意します。明治天皇が所蔵された「百福図」のなかでも、珠玉の一点です。

第4章 京と瀬戸内の風景

第4章では広島歴史、風土、人びと、都のあった京都との交流などを三の丸尚蔵館が収蔵する多彩な名品で紹介します。平安時代末期の《平重盛書状(たいらのしげもりしよじょう)》、似絵を得意とした豪信(ごうしん)による《天子撰関御影(大臣巻)(てんしせつかんみえい だいじんかん)》は、平家による尊崇を受けて厳島神社が隆盛した当地にとっても重要な作品です。江戸時代の作品からは伊藤若冲(いとうじゃくちゆう)《旭日鳳凰図(きよくじつほうおうず)》、小島彤山(こじまとうざん)《象墜(しょうついでい)》などを紹介し、若冲や彤山と広島の人びとの関わりにも注目します。近代の作品からは、明治維新の中心人物となった三條実美(さんじょうさねとみ)の事蹟を描く絵巻、瀬戸内海の景色を主題とした油彩画などを取り上げます。これらにも広島とのゆかりを見出すことができるでしょう。

見どころ

伊藤若冲(いとうじゃくちゆう)

《旭日鳳凰図(きよくじつほうおうず)》

江戸時代 宝暦5年(1755)【前期】

伊藤若冲は京の町衆出身、富裕な青物問屋を隠居して作画三昧の生活を送った絵師です。本図は、家業を弟に譲って作画に専念した年に描かれたもの。鳳凰の図様は中国絵画に倣い、その羽文や色彩構成、波や岩の形態感覚などに自身の創意を加えたとみられます。



第5章 帝室技芸員と近代工芸の精華

第5章では帝室技芸員(ていしつぎげいん)らによる近代工芸の優れた作品を中心に紹介します。帝室技芸員とは美術工芸の奨励、発展を目的に創設された顕彰制度で、皇室の美術工芸品制作を務めた主要な作家たちです。皇室に伝わる工芸品には精工社(せいこうしゃ)や東京美術学校などに制作が委嘱された例も多くあり、その制作にあたっては多分野の作家たちが総力を結集しました。広島出身の漆芸家六角紫水(ろっかくすい)や金工家清水南山(しみずなんざん)も東京美術学校に学び、正倉院宝物などから技法やデザインの源泉を求めた《蓬萊雲鶴蒔絵書棚(ほうらいうんかくまきえしよだな)》や《置時計》などの制作に携わりました。

見どころ



六角紫水(ろっかくすい)ほか

《蓬萊雲鶴蒔絵書棚(ほうらいうんかくまきえしよだな)》
大正6年(1917)【後期】

立太子礼に際し、皇太子(昭和天皇)から大正天皇へ贈られた品。棚の形式や文様は正倉院宝物を範としています。六角紫水は現在の広島県江田島市に生まれ、東京美術学校で白山松哉(しらやましようさい)らに漆芸を学びました。文化財調査、色漆(いろうるし)の開発など、その活動は精力的で幅広いものでした。

【媒体掲載用の画像提供について】

- ※いかなる場合も本プレスリリースからの転用は御遠慮ください。
- ※都合により出品作品が異なる場合がございます。御了承ください。
- ※画像については提供が可能です。画像掲載の際には、当館までお問い合わせください。
- ※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館まで御提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。

来館の皆さまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の対策を行っています。御理解と御協力をお願いします。

- 次に該当するお客様は、入館を御遠慮ください。
 - ・発熱や、軽度であっても咳・のどの痛みなどの症状があるなど体調の悪い方。
- 協力をお願い
 - ・正しいマスクの着用、手指のアルコール消毒、咳エチケット。
 - ・会話は控えめにし、特に大声での会話は行わないでください。
 - ・人と人との接触を避けるため、できるだけ距離を空けてください。
 - ・来館者が多い場合は、入場制限を行う場合がございます。

【関連イベント】

■講演会(共催:広島県立美術館友の会)

「悠紀主基地方風俗歌屏風をめぐる」

日時:9月17日(土)13:30~15:00 [開場13:00]

講師:朝賀 浩(宮内庁長官官房参事官)

会場:地階講堂

※聴講無料、要事前申込(TEL.082-221-6246)

■ギャラリートーク(ワイヤレスガイド使用)

日時:9月23日、30日、10月21日、28日(金) 11:00~

講師:当館学芸員

会場:3階展示室

※要入館券

※要事前申込(TEL.082-221-6246) ※定員10名

■インスタライブ

日時:10月6日、13日(木) 17:00~

英訳あり



公式Instagram

■ワークショップ

こどもワークショップ「ミニ屏風に絵を描こう」&鑑賞会

日時:10月15日(土)13:30~15:30

講師:宮郷 敦子(日本画家)、当館学芸員

会場:地階講堂

対象:小中学生

※要実費

※要事前申込(TEL.082-221-6246) ※定員10名

【開催概要】

メインタイトル: 皇室の美と広島—宮内庁三の丸尚蔵館の名品から—

会期: 令和4年9月16日(金)～10月30日(日) 会期中、大幅な展示替えあり。

前期: 令和4年9月16日(金)～10月10日(月・祝) 後期: 令和4年10月12日(水)～10月30日(日)

休館日: 祝日除く月曜日、10月11日(火)

開館時間: 午前9時～午後5時(入場は閉館の30分前まで)

※毎金曜日は午後7時まで延長(入館は午後6時半まで)

会場: 広島県立美術館企画展示室(広島県広島市中区上幟町2-22)

入館料: 一般1400円、高・大学生1000円、**中学生以下無料** ※前売・20名以上の団体は200円引き

開会式(関係者及び報道関係の皆様対象)

日時: 令和4年9月16日(金) 午前9時30分～午前10時00分

観光事業者・観光ガイド向け特別鑑賞会(報道関係者の皆様も御取材いただけます)

日時: 令和4年9月20日(火) 午後4時30分～午後6時00分 ※要申込

前売券販売所: 広島県立美術館、セブンチケット(セブンコード:096-117)、ローソンチケット(Lコード:61309)、チケットぴあ(Pコード:686-142)、広島市・呉市内の主なプレイガイド、画廊・画材店、ゆめタウン広島などで販売しています。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開館情報に変更の生じる場合がございます。最新情報は広島県立美術館(電話・HP・SNS)まで

【縮景園連携】

ワンコイン縮景園 本展入館券の提示により、100円で縮景園に入園いただけます。

開催クレジット

主催: 広島県立美術館、広島テレビ、イズミテクノ、宮内庁

後援: 中国放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMはつかいち76.1MHz、FM東広島89.7MHz

協賛: 大和証券、広島県信用組合、一般財団法人ケンシン地域振興財団

特別協力: 文化庁、紡ぐプロジェクト、読売新聞社

助成: 令和4年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業

問い合わせ先: 広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail: iroeuuma2@gmail.com

担当: 学芸課 隅川 明宏、岡地 智子

広報担当: 総務課 一色 直香、弘津 かおる



公式Instagram



公式Facebook



公式Twitter



広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum